

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成23年度病害虫発生予察特殊報第4号について（送付）

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。
なお、病害虫防除所ホームページ（www.jpnp.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第4号

平成24年3月27日
鹿児島県病害虫防除所

1 病害虫名 シュレイツメハダニ *Oligonychus biharensis* (Hirst)
(ハダニ科)

2 作物名 ハウス栽培マンゴー（品種アーウィン、加温栽培）

3 発生確認および発生状況

(1) 発生確認年月日 平成24年2月28日

(2) 同 定 確 認 平成24年3月11日 茨城大学農学部 後藤 哲雄教授

(3) 発 生 状 況 肝属郡錦江町（ハウス1地点、樹齢15年生）

ハウス栽培マンゴーで寄生が認められた。日本における本種の発生は、沖縄県では平成7年に、本県では平成10年に徳之島および喜界島のマンゴーで発生が確認されていた（山口ら、2006）が、県本土ではこれまで確認されていなかった。

4 形態及び生態の特徴

(1) 形態：成虫は鮮紅色～濃赤色、体長は約0.4mm、体幅は約0.3mmである（写真1）。

(2) 寄主植物：日本ではマンゴー、クズ、海外ではマンゴー、ビワ、レイシ、バラ等に寄生する。

(3) 被害：マンゴーでは主に葉表に寄生し、多発すると被害部が退色、白化してかすり状を呈し（写真2）、後に褐変して光沢を失う。また、現在のところ、果実への被害は確認されていない。

(4) 分布：海外ではインド、フィリピン、タイ、ハワイ、モーリシャス諸島、ブラジルおよび中国に分布する。

5 防除対策

既発生地からの苗の導入には、十分注意する。

6 参考文献等

(1) Ehara, S. (1966) Jour. Fac. Sci. Hokkaido Univ. Ser. 6, Zool,16:1-22

(2) 江原昭三ら (2009) 原色植物ダニ検索図鑑 143-144

(3) Gotoh et. al. (1996) J. Acarol. Soc. Jpn. 5:89-94

(4) 鈴木 優子 (2001) 沖縄農研報 35:43-48

(5) 山口卓宏ら (2006) 九病虫研究会報 52 : 60-65

(6) Flechtmann et. al. (1970) Annals of the Entomological Society of America, 63: 156-163

(7) Ji et. al. (2008) Internat. J. Acarol, 34:175-181



写真1 成虫



写真2 被害葉